

1 学校教育目標

【教育目標】
 (1)一人ひとりの可能性を伸ばし、一人ひとりの夢や目標の実現を支援する。
 (2)自主・自立の精神を育て、主体的に進路選択ができる能力を育成する。
 (3)Think Globally, Act Locally

【大津校舎】
 地域の期待に応える進学校としての充実を図るとともに、3キャンパス制のメリットを生かし多様な教育活動を展開し、グローバルな社会で活躍できる人材を育成する。
 (1)自ら学び、考え、判断し、挑戦・実行していく力を育む。
 (2)多様な体験を通して、多面的に物事を捉える力を育て豊かな人間性を育む。
 (3)国際教育を推進し、コミュニケーション・ツールとして、英語の習熟を図る。

【日置校舎】
 地域の期待に応える専門学科としての充実を図るとともに、3キャンパスの連携による生徒の自主的活動を充実させ、地域社会に貢献できる人材を育成する。
 (1)地域産業との連携を強化することにより、社会に貢献できる人材を育成する。
 (2)学校行事等の自主的活動の充実を図り、人間関係能力の向上を図る。
 (3)系統的・組織的なキャリア教育の推進により、一人ひとりの夢の実現を図る。

【水産校舎】
 3キャンパス制のメリットを生かすとともに、海に学び、自信と誇りを持って海を核とした産業社会に貢献できる人材の育成を図る。
 (1)海に生きるための規律ある行動と体力を身につけさせる。
 (2)海のスペシャリストとして必要な知識・技能を身につけた人材を育成する。
 (3)生徒一人ひとりを大切に、達成感や感動のある教育活動を実践する。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【3校舎共通】
 ・県内初の高校コミュニティ・スクールの指定を受け、各校舎の特徴を生かしながら、学校運営・地域支援・地域貢献など「地域とともにある学校づくり」の推進に向けて一定の成果が表れた。
 ・生徒会と市内の食品製造会社「フジミツ」・「深川養鶏協同組合」が一緒になって、「長門の特産品を使った加工品」をテーマに商品開発に取り組み、一定の評価を受けた。
 ・生徒指導に関して、各校舎共通のルールで指導していることで、生徒の意識が高まり、場に応じた行動を自らの判断で対応することができる生徒が増加した。
 ・授業公開週間や研究授業をこれまで通り継続するとともに、異校種にも目を向け、小・中学校で行われる研究授業等に積極的に参加し、授業改善に役立てることも必要である。
 ・インターシップや進路ガイダンス、大学・企業訪問などを計画的に行い、職業観の育成や目標設定の機会の充実を図ることができた。地元企業への就職を増やすことが、引き続き望まれる。

【大津校舎】
 ・学校運営…ホームページの活用や中学校訪問等、積極的な情報発信に取り組んだが、結果として昨年度の志願倍率は0.9であった。中学校訪問の地域拡大も検討しながら、ホームページや「学校だより」による情報発信を一層充実させていく必要がある。
 ・学習指導…朝学習や週末課題、課外授業等の徹底を図るとともに、少人数指導や習熟度別の導入、グループワーク等を工夫したアクティブラーニングの導入等、学習指導の工夫改善を積極的に進めた結果、生徒の学習への取組状況は良好である。生徒にとって、より効果的になるよう一層の工夫改善を進め、予習・復習等の学習習慣の確立や学習意欲の向上を図っていく必要がある。
 ・進路指導…インターシップや出前講義等、体験的な学びを生かした取組により、主体的な進路意識と学ぶ意欲の高揚が図られている。大学進学とその先を見据え、3年間を見通した組織的な取組となるよう、さらに改善を進める必要がある。
 ・生徒指導…生徒は概ね落ち着いており、身だしなみも整っている。規律ある生活態度で、学校行事や部活動、ボランティア活動等に熱心に取り組んでおり、学校生活の満足度も高い。引き続き、自己有用感を高め、主体性や自主性を育みながら、地域の期待に応えるリーダーとしての意欲や資質能力を育成していく必要がある。定期的な生活アンケートや教育相談会議により、生徒情報の収集や共有化を進め、スクールカウンセラーとも密に連携しながら、生徒支援を行うことができていく。引き続き、様々な課題のある生徒に対して、早期対応やきめ細かな支援等、支援体制の一層の充実が必要である。
 ・その他…韓国中馬高校との交流は昨年度実施できなかったが、今年度については現在日程調整を進めている。マレーシア・シンガポールへの修学旅行では、生徒の感想からも、国際感覚の醸成が図られている。訪問先の再検討など、さらに効果的に進める工夫が必要である。「長門学」については、毎年の改善により、充実した内容になっている。今年度はコミュニティ・スクールの関係からも、一部に外部講師の招聘を予定し、地域とのさらなる連携を深めていきたいと考えている。

【日置校舎】
 ・学校運営…入学定員の充足に対応して、体験入学や各中学校での進学説明会、各中学校への訪問、HPの活用、マスコミへの報道依頼等情報発信に努めたが、十分な成果は現れなかった。地域(関係機関)との連携活動は活発に行われているが、中学校や大学等異校種間の連携が不足している。特に大学との連携を充実させ、より質の高い教育を目指したい。
 ・学習指導…基礎学力の定着を図るため、国語・数学・英語の朝学の実施や基礎学力テストの判定、少人数指導の充実等、生徒一人一人を大切に指導を実践することができた。また、生徒の授業評価を反映した授業公開や全科目の代表者による研究授業を通して、授業改善に取り組むことができた。更なる基礎学力の定着に向けた取り組みと家庭での学習時間の確保を図る。
 ・進路指導…生徒が希望する進路先に殆どの生徒が早い段階で決定することができた。進路決定率100%が達成できた。2年次のインターシップについて、学科に関連したインターシップ先で体験する生徒はやや増加したが更なる対応が課題である。生徒が早い段階に高い進路目標を設定できるようキャリア教育の更なる充実を図る。
 ・生徒指導…年間を通して、全校生徒が順番に校門に立つ「さわやか挨拶運動」を通して、生徒同士の好ましい人間関係づくりを図ることができた。また、先生方や来校者に対し、よく挨拶をし学校の明るい雰囲気をつくることができた。
 ・その他…生徒のプロジェクト学習等の取り組みが、地域の活性化に繋がるよう関係機関との連携を強化し、充実した取り組みを推進する。各種資格取得を推奨し、指導体制の充実を図る。

【水産校舎】
 ・学校運営…地域と連携した活動では、漁協と連携した漁業後継者育成の取組や6次産業の取組、長門市役所・漁協と連携したアワビの放流と育成場整備の取組、水産研究センター・漁協・企業と連携したアカモクの増養殖と商品開発の取組など、地域の水産業の活性化に貢献するとともに学習活動・体験活動の充実を図ることができた。また、地元小学校と連携した授業では、小学生が本校舎の実習施設を使用して色々な食品の製造を体験し、食に対する興味関心の向上に繋がった。特色ある活動をより積極的、効果的に情報発信することが必要である。
 ・学習指導…学習状況、出席状況ともに昨年度に比べ改善が見られた。苦手科目の取組状況に引き続き課題がある。資格取得では、取得率も上がり学習意欲の向上に繋がった。
 ・生徒指導…アンケートや相談活動、情報共有等の充実など、未然防止の取組の強化により昨年度に比べ問題行動等が減少した。SNSを使用したトラブル防止等に課題がある。
 ・進路指導…進路面談や事前指導の充実により、進学では全員が希望校に合格したが、就職では若干名の未定がでた。内定率100%に向けた、1年次・2年次での指導の充実が課題である。
 ・その他…生徒募集では、全教員で7月・12月に県下の中学校を訪問し、生徒募集・学校PRを意欲的に行った。その成果もあり、志願倍率は海洋技術科1.8倍、海洋科学科1.0倍となり昨年度を上回った。長門・萩地区からの志願者増加に向け、取組の充実が必要である。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【3校舎共通】
 ・学校運営協議会を効果的・効率的に運営し、魅力ある学校づくりを推進する。
 ・地域と連携した取組については、単に回数を増やすだけでなく、連携活動の質の向上を目指す。
 ・体験乗船や農業体験などの実施に加えて、更に各校舎間の特徴を生かした教育活動の展開を検討する。
 ・地域の皆さんに、本校の良さを認識してもらうため、しっかりと情報発信を行う。特に小・中学校の児童生徒、保護者、教員には創意工夫した情報の発信に努める。
 ・少子化が進む中、活力ある教育活動の展開を工夫し、更なる「魅力ある学校づくり」を推進する。
 ・PTA活動においては、総会やPTA行事を進める中で、全ての保護者が相互理解を深めることができるよう工夫・改善に努める。

【大津校舎】
 ○特色ある学校づくりと積極的な情報発信
 ・コミュニティスクールの導入により、3校舎や地域との連携協働をより一層深めながら、各校舎の特色ある教育活動をさらに充実させる。また、それらの取組を積極的に生徒、保護者、地域に情報発信することで、本校の教育に対する理解を得る。
 ○基礎基本の徹底ときめ細かな学習指導
 ・学力の2極化に対応するために、学力差に応じた朝学習や週末課題、課外授業等の工夫を検討し、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実させる。
 ・自主的に予習・復習に取り組む学習習慣の確立を図るとともに、アクティブラーニングを意識した授業づくりを工夫し、生徒の学習意欲の向上と基礎・基本の定着、思考力・表現力等の育成を進める。
 ○将来を見据えた系統的・組織的な進路指導
 ・大学の出前講義や大学訪問、インターンシップ等の体験学習、韓国中馬高校との交流等に積極的に取り組み、質的な改善充実を進めることで、大学進学とその先を見据えた主体的な進路選択につなげる。
 ・進路指導体制の見直しや生徒・保護者への積極的な進路情報の提供により、系統的・組織的な進路指導を実践する。
 ○体験活動を重視した人間形成
 ・学校行事や生徒会活動、部活動、地域と連携したボランティア活動等の積極的な取組により、自己有用感を高め、地域の期待に応えるリーダーとしての主体性や自主性を育成する。
 ○生徒一人ひとりを大切にしたい支援体制の充実
 ・全教職員やスクールカウンセラー、中学校等の連携を強化し、生徒情報の積極的な収集と密な情報交換により、生徒の多様な課題を解決するために、家庭との連携のもと、迅速な初期対応や生活リズムの改善を図るなど、きめ細かな生徒支援に取り組む。

【日置校舎】
 ○5つの重点目標と15の具体的方策
 1 分かる授業の実践に努め、学力の向上を図る。＜教務課＞
 ①生徒の授業評価を反映した授業改善に取り組む。
 ②全校体制での朝学の実施、繰り返し学習に重点を置き、学力の確実な定着を図る。
 ③体験的な学習、作業的な学習を取り入れ、生徒の活動意欲を高める。
 2 人間関係能力の向上を図る。＜生徒指導課＞
 ④良好な人間関係を構築するための基盤となる基本的生活習慣の確立を図る。
 ⑤3キャンパス制のメリットを生かした体験活動を実践し、3キャンパスの一体感の醸成を図るとともに、他者理解の力を高めていく。
 ⑥生徒会を中心とした交流を促進し、協調性やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生徒の感性を磨く時間の設定に努める。
 3 ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。＜保健体育課＞
 ⑦規則正しい生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を図る。
 ⑧生徒の情報共有に努め、健康観察・健康相談、教育相談等の充実を図る。
 ⑨健康診断及び事前事後の保健指導を充実させ、事後措置における受診率の向上を図る。
 4 系統的・組織的なキャリア教育を推進する。＜進路指導課＞
 ⑩3年間を見通した進路指導により、望ましい職業観・勤労観を育てる。
 ⑪インターンシップや進路ガイダンス、学校・企業見学会を通して、自己理解を深め、進路意識の高揚を図る。
 ⑫きめ細やかな面談や課外授業、個別指導等を行い、個々のニーズに対応した進路実現を図る。
 5 地域との連携を強化する。＜農業部＞
 ⑬「学校・地域連携協議会」や地元の関係機関との連携を強化する。
 ⑭地域の課題を題材にしたプロジェクト学習を推進する。
 ⑮6次産業化の基礎を築くために、直売所を活用した生産から加工、販売までの一貫した教育を展開する。また、商品開発に挑戦する。

【水産校舎】
 ○地域連携の充実による特色ある学校づくり
 ・コミュニティスクールとしての地域連携、地域貢献の活動の充実に取り組む、水産教育への理解と期待に繋げる。
 ・特色ある教育活動の推進に取り組むとともに、ホームページの充実等により積極的・効果的な情報発信を図り、生徒募集に繋げる。
 ○基礎学力定着と進路実現
 ・生徒の基礎学力向上、学習意欲向上のために、分かりやすい授業と指導方法の充実に努め、全教員が一致協力して取り組む。
 ・生徒の進路希望の実現に向け、計画的・組織的できめ細かい指導と面談等の実施、充実に取り組む。
 ・海のスペシャリスト育成に向け、体験的な学習の充実や資格取得の啓発を図る。
 ○一人ひとりを大切にしたい教育の推進
 ・生徒が安心・安全で充実した学校生活を送れるよう生徒指導、相談活動等の充実を図るとともに、生徒理解と情報共有に努め、問題行動やいじめ等の未然防止に取り組む。
 ・規範意識の向上とともに、生徒会活動、特別活動の充実により達成感や自己有用感の醸成を図る。
 ・基礎体力の向上とともに、健康相談等の充実により健康管理の意識の向上を図る。

【チャレンジ目標】
 ■和・輪・WA！ ～地域とつながる3つの“わ”～
 ・和…和やかに(笑顔と協調) ・輪…3校舎の団結、地域との繋がり ・WA！…驚き、和及び輪を持って、大津緑洋高校ならではの活動を行い、人々を驚かせたい

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
3校舎共通				3校舎共通			
学校運営等	3校舎間や地域との連携の深化と協働体制の充実強化	・拡大企画調整会議の開催等により、3校舎の連携協働の充実と一体感の醸成を図る。	4 拡大企画調整会議を年3回開催し、協議する中で、3校舎の連携協働と一体感の醸成が十分に進んだ。 3 拡大企画調整会議を年2回開催し、協議する中で、3校舎の連携協働と一体感の醸成が進んだ。 2 拡大企画調整会議を年1回開催したが、3校舎の連携協働と一体感の醸成は進まなかった。 1 拡大企画調整会議を開催することができず、3校舎の連携協働と一体感の醸成が進まなかった。	3	・拡大企画調整会議は、年間計画に従って予定どおり実施している。 ・学校行事等においては、3校舎間での連携により円滑な運営が行えている。 ・「拡大企画調整会議」での協議内容については、各校舎で開催する職員会議において報告することにより全職員への共通理解を図った。	・各校舎で様々な行事、事業があるにもかかわらず、先生方のコミュニケーションに対する意識や必要性の高さが伝わってきている。 ・生徒達は、地域貢献を通じて、郷土愛が育まれていると思う。 ・継続可能な取り組みとして更に充実して欲しい。	B
		・コミュニティ・スクールとして、地域と一体となった教育活動の充実を推進する。	4 地域と一体となった魅力ある教育活動を十分進めることができた。 3 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることができた。 2 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることはあまりできなかった。 1 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることができなかった。	3	・生徒と地元企業が連携した商品開発や各種地域行事への積極的な参加により、生徒の体験活動が充実すると共に地域貢献にもつながった。 ・普通科で実施している「長門学」において、地域の専門家による講話を取入れることにより、生徒の興味をより高めることができた。		
総務	3校舎の連携強化	・調整会議やクラウドを利用し、連携を図り、行事の企画・運営・反省を行う。 ・準備と確認を徹底する。	4 調整会議を開催し、課題を全て解決することができた。 3 3校舎の調整会議をほぼ毎月1回のペースで開催した。 2 3校舎の調整会議を每学期2回のペースで開催した。 1 3校舎の調整会議を每学期1回のペースで開催した。	3	・密に連絡調整ができた。月に一度の調整会議は実施しなくなったが、成果は十分あげられた。・行事の分担が定着してきた。各総務課が機能してきた。	・3校舎の連携強化を図るためには、綿密な連絡調整は不可欠と思われる。	B

教務	学力の定着及び3校舎間の理解と交流の促進	・集中して授業に取り組むことができる環境作りを図る。 ・学習内容の確実な習得を図る。	4 授業評価アンケートの「授業に集中して取り組む」の項目において85%以上の生徒があてはまると答えた。 3 授業評価アンケートの「授業に集中して取り組む」の項目において80%以上の生徒があてはまると答えた。 4 授業評価アンケートの「授業に集中して取り組む」の項目において75%以上の生徒があてはまると答えた。 1 授業評価アンケートの「授業に集中して取り組む」の項目において75%未満の生徒しかあてはまると答えなかった。	4	・1学期末の授業評価アンケートで「授業に集中して取り組む」という回答は、大津校舎97%、日置校舎97%、水産校舎64.1%の平均88.4%であった。引き続き集中して授業に取り組めるような環境作りや授業展開を全員で図っていききたい。	・「授業に集中して取り組む」ことは高校生のあるべき姿だと思う。 ・今後も良い学習環境作りを図って欲しい。	B
		・授業参観と公開授業の活性化を図る。 ・中高連携の授業公開や授業研究を通して教員の授業スキルの向上を図る。	4 全ての教科で授業公開週間等を活用し、授業研修を実施した。 3 8割以上の教科で授業公開週間等を活用し、授業研修を実施した。 2 半数を超える教科で授業公開週間等を活用し、授業研修を実施した。 1 半数以下の教科で授業公開週間等を活用し、授業研修を実施した。	3	・8割方の教科において授業公開週間や初任研や中高連携の研究授業などを中心に、積極的に授業参観を行った。 ・時間的配慮等、授業研修や授業参観がしやすい環境を作っていききたい。		
		・行事の精選と日程の調整を行う。 ・3校舎間の円滑な連絡体制を維持する。	4 全ての3校舎の行事を円滑に実施することができた。 3 8割強の3校舎の行事を円滑に実施することができた。 2 7割の3校舎の行事を円滑に実施することができた。 1 7割未満の3校舎の行事を円滑に実施することどまった。	4	・行事の調整等3校舎の連絡体制を築けており、円滑に連絡調整を行うことができた。引き続き取り組んでいきたい。		
生徒（指導）	基本的生活習慣の確立	・身だしなみを意識させ、頭髪・服装指導を徹底する。	4 生徒の身だしなみに関する意識が十分に高まった。 3 生徒の身だしなみに関する意識が高まった。 2 生徒の身だしなみに関する意識がやや高まった。 1 生徒の身だしなみに関する意識が高まらなかった。	3	・3校舎共通のルールの下、各校舎において定期的に服装・頭髪に関する指導を実施した。指導を通して身だしなみを整えるという生徒の意識も高まってきているように感じており、引き続き、自らの判断で場に応じた適切な身だしなみを意識する感性を養っていききたい。	・日置校舎は、3キャンパス制のメリットや部活動の成果向上等と生徒指導の関わりを取り上げているが、大切な評価項目（分析）ではなからうか。 ・自分が大津緑洋の生徒だと自覚することはもちろん、それにプラスして自信を持つことが大切だと思う。コミュニケーション能力や学校生活に充実感を得られるよう、個人個人の接し方に工夫がいると思う。	B
		・場面に応じた言動が、自らの意思で取れるように指導する。	4 生徒は場面に応じた言動が、自らの意志で取れた。 3 生徒は場面に応じた言動が、指導されれば取れた。 2 生徒は場面に応じた言動が、自らの意志でやや取れた。 1 生徒は場面に応じた言動が、取れなかった。	3	・本校生徒の特徴として、指導されたことは素直に従い、場を乱そうとする生徒は皆無と言ってもよい。しかしながら、自ら判断し行動する力は弱いように感じている。評価基準にある「指導されればできた」から「自らの意思で」に代わることがあらゆる面での生徒の能力を伸ばすことにつながるかと考え、指導方法を考えていききたい。		
	人間力の醸成	・生徒会活動を中心に、校舎間及び地域との連携を深め、望ましいコミュニケーション能力を養う。	4 生徒のコミュニケーション能力が十分に向上した。 3 生徒のコミュニケーション能力が向上した。 2 生徒のコミュニケーション能力がやや向上した。 1 生徒のコミュニケーション能力が向上しなかった。	4	・今年度は、3校舎の生徒会が一緒になって行った取り組みが多く、企業との連携を図るなどコミュニケーション能力の向上につながる活動が多かった。また、各校舎の行事に他校舎の生徒会が協力するなどの校舎間の連携も図られていた。こうした生徒間の繋がりが重要だと考えるが、一部の生徒の活動にならないよう、生徒会を中心に一般生徒にも広げていきたい。		
		・いじめ防止活動への認識を深め、他者理解の心を養う。	4 いじめ防止活動への認識を深め、他者理解の心を十分に育成できた。 3 いじめ防止活動への認識を深め、他者理解の心を育成できた。 2 いじめ防止活動への認識を深め、他者理解の心をやや育成できた。 1 他者理解の心を育成できなかった。	3	・各校舎において、毎学期いじめアンケートを実施するとともに、いじめの未然防止に重要な他者理解の力を養うように指導してきた。今年度は、大きないじめ問題もなく、十分とは言えないが、他人を思いやる気持ちは育ってきているように感じている。		
保健体育	3校舎合同行事の円滑な運営	・野球応援、スポーツ大会、部活動など体育的行事や活動を通して、3校舎の交流を促進し、一体感の醸成を図る。	4 各行事で3校舎の交流が十分に醸成された。 3 各行事で3校舎の交流が醸成された。 2 各行事で3校舎の交流があまり醸成されなかった。 1 各行事で3校舎の交流が醸成されなかった。	4	野球応援練習や・応援・部活動など一体感の醸成を図ることができた。また、体育用品を融通仕合うことにより授業展開がうまく出来た。	・部活動を通じての一体感はある。今後は、体育祭を合同にするなど、もっと盛り上がりが必要だと感じる。	A
進路（指導）	キャリア教育の充実	・担当学年等と協力してインターンシップや進路ガイダンス、大学・企業訪問を実施し、職業観の育成や将来の目標設定機会の充実を図る。	4 1, 2年次からの進路意識が十分に醸成された。 3 1, 2年次からの進路意識が醸成された。 2 1, 2年次からの進路意識があまり醸成されなかった。 1 1, 2年次からの進路意識が醸成されなかった。	3	インターンシップや進路ガイダンス等を通じて徐々に進路意識が醸成されつつある。今後も担当学年と協力して目標設定機会の充実を図りたい。	・進路に対しては早期より目標設定の機会があったほうが良い。	B
	進路指導体制の充実	・校舎間、各課、各学年と情報の共有を図り、それぞれと連携を取りながら、個々のニーズに対応した指導を行う。	4 十分に情報を共有し、進路指導を充実させた。 3 ほぼ情報を共有でき、進路指導を円滑に行った。 2 あまり情報を共有できず、進路指導が不十分だった。 1 情報を共有できず、進路指導を行えなかった。	3	校舎間、各課、各学年との情報共有は図られた。今後、さらに校舎間の情報共有を進めていきたい。		
業務改善	3校舎の共通部分の学校運営、教育活動の効率化及び課題の共有化とその検討	・企画調整会議(学期に1回の拡大企画調整会議)を月初めに実施し、運営委員会・職員会議に連動させ、3校舎の共通部分の学校運営、教育活動が効率的に展開できるようにする。また、課題の共有を図り、各校舎で検討する流れをつくる。	企画調整会議の月初めの実施率が、 4 90%以上であった。 3 70~90%未満であった。 2 50~70%未満であった。 1 50%未満であった。	4	・9月までに5回の企画調整会議を実施しているが、その内4回は月初めに実施している。3回目については、月末に実施しているが、次の月の運営委員会・職員会議の連動が可能な日であった。学校運営、教育活動の効率的な運営、課題の共有とも、ほぼできている。	・トイレ、手洗い等の水回りの清潔さを、誰がどう保つか、工夫改善が要る。(養護教諭への指導) ・校舎によっては新しい机が放置されていることもあり、古い机を使っている校舎との入れ替えをするとよい。 ・部活動の指導者を外部からの配置にする等、私立高校に導入されていることも含め見直しが必要だと思う。	B
	少子化に対応した学校の活性化について検討	・各校舎の職員会議や学校運営協議会で議論された内容を、企画調整会議の議題として取り上げて検討し、年度末の拡大企画調整会議において意見を集約し、方向性をまとめる。(本年度は、特に部活動について検討する。)	企画調整会議で取り上げて検討した議題 4 3つ以上、議題に取り上げて検討した。 3 2つ議題に取り上げて検討した。 2 1つ議題に取り上げて検討した。 1 全く議題に取り上げなかった。	3	・少子化等に対応した学校の活性化について、3校舎で足並みを揃えて検討を進めている。 ・修学旅行の在り方について検討し、来年度に向けた見直しを行った。 ・部活動については、再編ではなく、顧問の配置等について3校舎を横断的に検討する予定である。		

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
大津校舎						大津校舎	
学校運営等	保護者・地域の理解を得ながら、地域の期待に応える学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用やさまざまな機会をとらえて、本校の魅力を地域や中学校、保護者へ積極的に情報発信する。 ・志願者数確保のため、情報発信の範囲を拡大する。 ・学校運営協議会等の意見を参考に、学校運営の見直し、改善に取り組む。 	(アンケート項目) 「学校からの情報は保護者・地域に十分に提供され、学校運営は円滑に行われている。」 4 [学校評価アンケート(肯定的意見) 80%以上] 3 [学校評価アンケート(肯定的意見) 70~80%] 2 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60~70%] 1 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60%未満]	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信の発行、ホームページの活用は積極的に進められているが、閲覧数を増やすための工夫が必要である。 ・学校説明会や様々な場面で、本校の良さを外部に情報発信し、その範囲も拡大させた。(県下全域にオープンキャンパスの案内、豊北、秋芳、伊佐、夢が丘に今年度訪問) ・学校運営協議会での意見を参考にし、長門学の講師や、国際交流委員の活用を今年度試みた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校での説明会では、それぞれの出身中学校の生徒による説明があってもよいのではなかろうか。 ・近隣にある私立・公立の普通科を意識しながら、保護者へのアプローチが必要である。 ・大津緑洋高校のプライドを持った教育の充実を図っていただきたい。 	B
	校舎間や地域との連携促進による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会、研究授業、研修等の取組などとおして、3校舎や地域との連携協働を進め、他校では真似できない本校の特色を活かした教育活動を展開し、教科・特別活動等の充実や授業力の向上を図る。 	(アンケート項目) 「3校舎や地域との連携が進み、特色ある教育活動が行われている。」 4 [学校評価アンケート(肯定的意見) 80%以上] 3 [学校評価アンケート(肯定的意見) 70~80%] 2 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60~70%] 1 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60%未満]	3	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より三校舎の生徒会が地元企業と連携した商品開発に取り組み、今年度商品として販売された。 ・授業公開、初任者研修やフォローアップ研修、中高連携の研究授業等の機会を利用して、三校舎間で積極的に授業研修に取り組んでいる。 		
総務	保護者参加型PTA活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌・学年と連携しPTA総会に工夫を加え、総会出席率の向上を図る。 	4 PTA総会90%以上の出席率であった。 3 PTA総会80%以上の出席率であった。 2 PTA総会70%以上の出席率であった。 1 PTA総会60%以上の出席率であった。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率は78.9%、前年に比べ3.7%低下したが、今回は運動部の中国大会出場と重なったため、若干低下しているだけで、昨年同様と考えている。80%は最低超えるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総会の欠席者へ再度出席を依頼し、出席率UPを図ったらどうだろうか。(別の日で) ・評価基準は出席率でいいのか。 	B
教務	学習習慣の確立と主体的な学びに対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の二極化に対応するため、朝学習や小テスト等を利用して基礎学力を定着させる。 ・生徒一人ひとりが積極的に参加できるように授業改善を図る。 	4 学校評価アンケート「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の80%以上が肯定的意見であった。 3 学校評価アンケート「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の75%以上が肯定的意見であった。 2 学校評価アンケート「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の70%以上が肯定的意見であった。 1 学校評価アンケート「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の70%未満が肯定的意見であった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートにおいて、87%の生徒が肯定的意見であった。また、授業評価アンケートの「課題、提出物はきちんとやり、期限内に提出している」の項目については肯定的評価が95.8%であった。生徒の基礎学力の育成を朝学や週末課題を通して引き続き図っていききたい。 ・新しい入試に対応できる授業改善に、引き続き取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大津緑洋の生徒はとても素直だと思う。きちんとした目標を定めさせ、意識が高まるように導いて欲しい。 ・HPからの情報を得ることが多いと思うので、最新の情報を提供できるように引き続き積極的に更新を行って欲しい。 	A
	地域や保護者に対する情報発信の手段について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者への積極的な情報発信をする。 ・緊急メールの活用方法や大津校舎ホームページの改善を検討する。 	4 緊急メールやホームページの活用が十分にでき、地域や保護者に積極的な情報発信ができた。 3 緊急メールやホームページの活用ができ、地域や保護者に積極的な情報発信ができた。 2 緊急メールやホームページの改善があまりできなかったが、昨年度並に地域やPTAに情報発信ができた。 1 緊急メールやホームページの改善があまりできず、地域やPTAへの情報発信も不十分であった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急メールについては列車遅延や休校の情報、行事のお知らせ等を適宜発信することができた。 ・ホームページについては12月27日現在、延べ73件の記事を更新し、行事や緊急連絡等の情報を発信することができた。これからも頻りに更新していききたい。 ・学校アンケートにおいて、情報発信が不十分というご意見もいただいたので、ホームページで情報発信をしているということを保険者に広めていきたい。 		
	地域の文化への理解と国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・長門学を活用し、地元への理解をさらに深化する。 ・長門の文化・日本の文化を理解し、韓国中馬高校との交流事業に積極的に生かす。 	4 長門学や国際交流の授業の評価において80%以上の生徒が満足したと回答した。 3 長門学や国際交流の授業の評価において70%以上の生徒が満足したと回答した。 2 長門学や国際交流の授業の評価において60%以上の生徒が満足したと回答した。 1 長門学や国際交流の授業の評価において60%以下の生徒しか満足できなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に実施した韓国中馬高校との交流については、参加したほとんどの生徒が満足したと回答していた。 ・また、地元の人材を活用した講演や、国際交流員の講演会を4回開催した。これからは講演会等を通して地域文化への理解や国際教育を推進していききたい。 ・学校評価の「国際交流に積極的に取り組んでいる」の項目の肯定的意見は50%にとどまっているので、学校としてこれから国際交流をどう進めていくかという課題も見えた。 		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立(『形』)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒心得を遵守し、高校生らしい清潔感のある服装・頭髪、着こなしに心掛ける。 ・登校時間や授業の始業時間等を遵守する。 ・感謝の気持ちと思いやり、そして誰に対してもその場に応じた挨拶が出来るようにする。 	4 3つの具体的方策が十分に達成されている。 3 2つの具体的方策が十分に達成されている。 2 1つの具体的方策が十分に達成されている。 1 どの具体的方策も十分に達成されなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の着こなしなどは概ねよくできている。 ・登校時間や授業の開始時間は良く守れているが、朝学に対する意識向上が今後の課題である。 ・挨拶はほとんどの生徒が問題ないが、ごく一部の生徒は元気がなく、引き続き指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務の学校評価アンケート結果と矛盾してはいないだろうか。 ・身だしなみは大切なので保護者にも声かけ等の協力依頼をしたらどうだろうか。校則やマナーは守ることが当たり前だと保護者に思ってもらえるように指導が必要と思う。 	B
	規範意識の醸成(『心』)	<ul style="list-style-type: none"> ・校則を熟知した上で遵守する。 ・交通法規を守り、マナーの向上に努め、特に施錠、傘差し運転、並進等に気をつける。 ・携帯電話等の使用について、校則を守るとともに社会一般での使用マナーの徹底を図る。 ・大津緑洋高生としての自覚を持ち、社会の一員として道徳心の向上に努める。 	4 4つの具体的方策が十分に達成されている。 3 3つの具体的方策が十分に達成されている。 2 2つの具体的方策が十分に達成されている。 1 1つの具体的方策が十分に達成されている。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・校則は遵守できている。 ・引き続き交通マナーが向上するよう指導を継続していく。 ・生徒アンケートより、一部の生徒が携帯電話の使用について違反があるようだとして2~3件記述があった。今後昼休みなどに巡視をしていかなければならない。そして、正しい使い方やマナーの指導を強化する。 ・地域から信頼される地元の高校生となるような高い道徳心の育成に今後も努める。 		

保健体育	自己の健康意識の向上と運動習慣の改善・定着	・定期的な身体測定を通じて、生活習慣の見直しの機会とする。 ・スポーツテストや体育的行事を通じて体力の向上を意識させる。	4 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が75%以上であった。 3 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が65%以上であった。 2 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が55%以上であった。 1 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が55%未満であった。	4	・授業や身体測定・体育的行事等が契機となり、健康の保持増進や体力の向上に向け、運動習慣の定着が必要であることは理解している。 ・アンケート結果によると、主体的に健康や体力の保持増進に努めていると回答した生徒が77%であった。	・自分の体を大切にすることや、自分の体は自分でしか守れないとの指導をして欲しい。健康第一であるという、意識が保護者にも要と思う。	B
	健診結果に基づく事後措置率の向上	・長期休業前に個人指導を行う。 ・受診状況を長期休業後に把握し、個人指導を行うとともに、勧告者一覧表を担任に配布し協力を得る。 ・保護者会を通じて保護者の協力を得る。 ・学校保健安全委員会の結果を保健委員を通じて生徒へ反映させる。	4 事後措置率が70%以上であった。 3 事後措置率が60%以上であった。 2 事後措置率が50%以上であった。 1 事後措置率が50%未満であった。	3	・事後措置率は心臓疾患については100%、視力55.4%、歯科57.3%、耳鼻科31.2%、眼科33.3%、尿66.6%であった。(全体での事後措置率は57.3%)部活動や学習で時間がないという生徒が多い。さらに、受診の必要性を感じていない生徒もいる。 ・個別に保健指導を行い受診勧告をするとともに、保健日より、委員会活動等を通して受診の必要性を理解させる必要がある。自己の健康へ関心を高めさせるようにしたい。		
	教育相談体制の充実	・SCとの効果的な連携を図り、生徒の学校不応等への対応や未然防止に努める。 ・教職員の研修会等を通してカウンセリング技術や指導力の向上を図る。	4 SCとの効果的な連携を図り、計画的に教育相談会議を実施するなど学校不応生徒等支援の充実が十分深まった。 3 SCとの連携を図り、適宜教育相談会議を実施することで学校不応生徒等への支援の充実が図れた。 2 SCとの連携を図り、教育相談会議を実施することで学校不応生徒等への支援がある程度できた。 1 SCとの連携が不十分で、教育相談会議の回数も少なく学校不応等生徒への支援に課題が残った。	3	・SCとの連携の上、情報交換を綿密に行い、教育相談関係者、保護者、学年団との協議を行うなど生徒の支援につながった。 ・学期ごとのFitアンケートを踏まえての教育相談会議に加え、関係機関職員とのケース会議を実施する中で、学年や生徒課との連携を深めながら共通の視点に立った支援計画を進めることができた。 ・教職員研修会とおし、発達障害とその支援の在り方についての理解や見識が高まった。 ・不登校傾向にある生徒もおり、早期対応及び支援の一層の改善・充実が必要である。		
進路指導	キャリア教育の一層の充実	・進路講演や職場体験学習を通して、職業観や将来のビジョンを育てるとともに自己の適性について理解を深める。 ・出前授業や大学訪問を積極的に取り入れ、将来自分が学びたいこと、学ばなければならないことを考察する機会とする。	4 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が80%以上であった。 3 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が70%以上であった。 2 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が60%以上であった。 1 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が60%未満であった。	3	・1・2年生は文理選択を前に外部講師の講演会を聞き、教務課とともに説明会を実施した。2年生は職場体験とまとめ学習を行い、将来の進路選択について深く考えることができた。 ・山口大学医学部の来校説明会を実施し、検査・看護志望の生徒が参加し進路意識を高めた。1年生全員、2・3年生希望者を対象に下関市立大学経済学部、九州工業大学情報工学部の出前授業を実施し理解と関心を深めた。 ・8月には1年生全員で山口大学のオープンキャンパスに行き、また県内開催の薬剤師セミナー、県内教員志望者への説明会等へ希望者が参加し理解と関心を深めた。	・先生方の指導や配慮により沢山の経験が出来ると思う。その経験を活かすことが必要。	A
	進学指導体制の連携強化と改善	・学年やクラス担任との連携を図りながら、生徒の実態とニーズに応じた進学ガイダンスを提供する。 ・個々のニーズに適した課外授業や個別指導を教員間で連携をとりながら行い、学習効果の向上を図る。	4 連携を図ることで生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等を大いに充実させることができた。 3 連携を図ることで生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等を充実させることができた。 2 連携を図ったが、生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等の充実はあまりできなかった。 1 連携を図ることができなかった。	3	・1、2年生にはスタディサポートの結果を分析し、それを踏まえた効果的な学習方法についてガイダンスを行った。また、夏季休業前には講師を招き、2、3年生に、夏休みを活用した効果的な学習方法についてガイダンスを行った。 ・課外は、夏季前期・後期の開講科目の調整、開講講座の増設、習熟度別の一部導入で生徒のニーズに可能なかぎり応じた。審査前には土日活用で、開講希望の多い授業の補講を行い学力向上に努めることができた。		
事務	学校運営の活性化	・事務職員と教員の連携を強化したうえで事務の見直し等を行い、学校教育目標達成のための予算執行を推し進める。	4 連携を強化し、学校教育目標達成のための予算執行を行うことができた。 3 連携を強化し、事務の見直しを行うことができた。 2 連携は強化したが、学校教育目標の達成には至らなかった。 1 連携の強化が、あまりできなかった。	3	・教職員一人ひとりに、業務に必要な物品等の購入希望調査を早めに行い活用することができた。 ・教員及び各校舎との連携を強化し、今後も効率的な予算執行に努める。	・事務職員と先生方にとっても意思疎通が出来ていると感じる。	A
	接遇の向上	・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。	4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。	3	・管理職のスケジュールを毎朝のミーティングで徹底把握することにより、来客及び電話の取次がスムーズにできた。 ・事務職員の名札着用を徹底した。今後も来客時の迅速・丁寧な対応に努めていく。		

日置校舎				日置校舎			
学校運営等	地域とともにある学校づくりを推進する。	・学校運営協議会を設置し、関係機関等との協働体制を強化し、学校の課題解決に向けた取り組みを推進する。	4 テーマを設定し、各部会等との交流を10回以上行った。 3 テーマを設定し、各部会等との交流を7回以上行った。 2 テーマを設定し、各部会等との交流を4回以上行った。 1 テーマを設定したが、各部会等との交流が3回以下だった。	3	本年度も昨年と同様の取組を行い、各部会の目標を達成できたと思うが、今後、質を高める方法など部会の在り方について見直しが必要と思われる。	・進路の結果や追跡結果を生徒募集の手段にすることで、定数確保を図ることが大切であろう。(例えば東京農大への進学等) ・日置校舎の生徒は、基本となる挨拶がよくできている。夢市場などに来られるお客様にも親切に接することができる。	B
		・家庭や地域に対して、学校の情報を多用に幅広く発信する。	4 メール配信 HPの更新 新聞掲載 毎週 40回以上 30回以上 3 30回以上 20回以上 2 隔週 20回以上 10回以上 1 19回以下 9回以下	3	本校舎の行事予定やその留意事項については、その都度複数の教員で確認しながらHPに掲載している。特色ある学校行事等については、引き続き報道機関等へ積極的に情報を発信していきたい。		
		・地域の交流、学習の場とした学校開放に努める。	4 年間の学校来場者数が7,000人以上であった。 3 年間の学校来場者数が6,000人以上であった。 2 年間の学校来場者数が5,000人以上であった。 1 年間の学校来場者数が5,000人未満であった。	2	農高祭の来校者が、天候等の影響により約500人減ったものの、1年間を通しての学校来場者数は昨年度とほぼ同じであった。校外での交流学習も活発に行っており、地域連携教育の成果は上がっている。		

学習指導	分かる授業の実践に努め、学力の向上を図る。	<p>授業内容に対する理解度(授業アンケートの項目で、「授業のポイントはよくわかる」)が、</p> <p>4 3.7ポイント以上 3 3.6ポイント以上 2 3.5ポイント以上 1 3.5ポイント未満</p>	4	2学期末授業アンケート結果 「授業のポイントはよくわかるか」平均3.7	<p>・授業改善の具体的中身が見えないので、明示していただきたい。(例えば、個別指導を充実させた結果、...なった等)</p> <p>・日置校舎の先生は、生徒に対して温かい。生徒にもよく伝わっていると思う。</p>	A
		<p>・全校体制での朝学の実施、繰り返し学習に重点を置き、学力の確実な定着を図る。</p> <p>4 全生徒の8割以上 3 全生徒の7割以上 2 全生徒の6割以上 1 全生徒の6割未満</p>	4	2学期末朝学確認テストの結果 86.4%		
		<p>・体験的な学習、ICTを活用した学習を取り入れ、生徒の活動意欲を高める。</p> <p>授業アンケートの項目で、「ア先生が準備する教材は解りやすく工夫されている」と、「イ解らない点は質問したり調べたりして解決するようにしている」が、</p> <p>4 アが3.6ポイント以上で、イが3.0ポイント以上であり、作業的な学習活動がある。 3 アが3.6ポイント以上で、イが3.0ポイント未満であり、作業的な学習活動がある。 2 アが3.6ポイント未満で、イが3.0ポイント以上である。 1 アが3.6ポイント未満で、イが3.0ポイント未満である。</p>	4	<p>2学期末授業アンケートの結果 ア「先生が準備する教材は解りやすく工夫されている」平均3.7 イ「分らない点は質問したり調べたりして解決するようにしている」平均3.1</p> <p>初任者研修等に係る研究授業では、教科内だけではなく、異なる教科間においても研究協議・意見交換をすることで、授業改善に向けての取組を行った。 授業に作業的な学習活動を取り入れることで生徒の学習内容の理解を深め、さらに、学習意欲を高めて家庭での調べ学習等につながることを目指していきたい。</p>		
生徒指導	人間関係能力の向上を図る。	<p>・良好な人間関係を構築するための基盤となる基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>4 基本的な生活習慣の確立が十分図られた。 3 基本的な生活習慣の確立が図られた。 2 基本的な生活習慣の確立がやや図られた。 1 基本的な生活習慣の確立が図られなかった。</p>	3	<p>長欠者(30日以上)の欠席者もなく、遅刻者も少ない。毎月行う頭髪・服装指導においても違反者はわずかで、再指導において改善されている。基本的な生活習慣は確立されつつあるが、自ら意識して行動できる生徒の育成が今後の課題と思われる。</p>	<p>・校舎内の意識の高さを感じられる。さらに一体感を高められるような活動をお願いしたい。</p> <p>・素晴らしい評価分析だと思ふ。(部活動の結果は、生徒募集・定数確保に関わりがあると思うので)</p>	A
		<p>・3キャンパス制のメリットを生かした体験活動を実践し、3キャンパスの一体感の醸成を図るとともに、他者理解の力を高めていく。</p> <p>4 3キャンパスの一体感の醸成が図られ、他者理解の力を高めることができた。 3 3キャンパスの一体感の醸成が図られ、他者理解の力をやや高めることができた。 2 3キャンパスの一体感の醸成がやや図られ、他者理解の力をやや高めることができた。 1 3キャンパスの一体感の醸成を図ることができず、他者理解の力をやや高めることができなかった。</p>	3	<p>部活動や野球応援、体験実習、各校舎の文化祭等の様々な活動を通じて、他校舎への理解はより深まってきているように感じる。今後は、3校舎の一体感が必要とされる部活動で、さらに成果を上げることがより一体感を高めることにつながるとともに、より他者理解の力が高まるものと考えている。</p>		
		<p>・生徒会を中心とした交流を促進し、協調性やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生徒の感性を磨く時間の設定に努める。</p> <p>4 生徒の資質向上が十分図られた。 3 生徒の資質向上が図られた。 2 生徒の資質向上がやや図られた。 1 生徒の資質向上が図られなかった。</p>	4	<p>生徒会を中心とした交流活動は、積極性を増し、校舎間のコミュニケーションを重視する意識が、生徒の間でも高まっているように感じる。本校舎内の活動においても生徒会を中心に生徒間のコミュニケーション能力が高まるとともに、各行事が生徒の成長により成果をもたらしているように感じている。</p>		
保健体育	ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。	<p>・健康診断及び事前事後の保健指導を充実させ、事後措置における受診率の向上を図る。</p> <p>4 健康に関心を持ち、事後措置における受診率が70%以上であった。 3 健康に関心を持ち事後措置における受診率が60%以上であった。 2 事後措置における受診率が50%以上であった。 1 事後措置における受診率が50%未満であった。</p>	4	<p>月1回の全体への保健指導を行い、受診率が73.3%と、昨年度を上回った(昨年度60.4%)。長期休業前の個別の保健指導が効果的であった。次年度は、さらに受診率を向上させていきたい。</p>	<p>・事後措置における受診率を向上させるために、学校全体で大変努力されていることがよくわかる。重要なことであるので、引き続き粘り強くお願いしたい。</p> <p>・平素から健康の大切さをよく指導されていると思う。</p>	A
		<p>・学校生活における環境整美及び安全管理に努め、安心安全な学習環境を提供する。</p> <p>4 学校環境の美化・安全管理が徹底された。 3 学校環境の美化・安全管理が図られた。 2 学校環境の美化・安全管理があまり図られなかった。 1 学校環境の美化・安全管理が図られなかった。</p>	4	<p>学校施設・設備の点検を行い、危険箇所や修繕を要する箇所を確認した。優先順位の高いものから適宜整備・修繕を行った。次年度も引き続き、安心安全な環境の提供に努めたい。</p>		
		<p>・規則正しい生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を図る。</p> <p>4 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が80%以上であった。 3 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が60%以上であった。 2 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が50%以上であった。 1 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が50%未満であった。</p>	4	<p>朝食摂取率は、「毎日食べる」が80%、「ときどき食べる」が15%、「いつも食べない」が5%であった。また、睡眠時間に関しては、「6~7時間」が39%、「7~8時間」が28%であった。今後は、授業を中心に指導を行い、適切な睡眠時間の確保と朝食摂取率の向上に向けて取り組みたい。</p>		
進路指導	系統的・組織的なキャリア教育を推進する。	<p>・3年間を見通した進路指導により、望ましい職業観・勤労観を育てる。</p> <p>4 LHRの時間においても年間5回以上進路指導を行う。 3 LHRの時間においても年間4回以上進路指導を行う。 2 LHRの時間においても年間3回以上進路指導を行う。 1 LHRの時間においても年間2回以上進路指導を行う。</p>	3	<p>現在5回行っている。 今後の予定として2月21日に「三年生からのメッセージ」を実施する。</p>	<p>・様々な体験活動の実施や情報提供など、きめ細やかな指導に努力されていると思う。</p> <p>・進路決定率100%はすごいことだと思う。</p>	B
		<p>・インターンシップや進路ガイダンス、学校・企業見学会を通して、自己理解を深め、進路意識の高揚を図る。</p> <p>4 1・2年次からの進路意識が十分に醸成された。 3 1・2年次からの進路意識が醸成された。 2 1・2年次からの進路意識があまり醸成されなかった。 1 1・2年次からの進路意識が醸成されなかった。</p>	3	<p>インターンシップや進路ガイダンス、産業人材実施セミナー等を通じ、進路意識が醸成されつつある。今後の予定として3月12日に進路ガイダンスを実施する。</p>		
		<p>・きめ細やかな面談や課外授業、個別指導等を行い、個々のニーズに対応した進路実現を図る。</p> <p>4 進路決定率が100%達成できた。 3 進路決定率が96%以上達成できた。 2 進路決定率が94%以上達成できた。 1 進路決定率が94%未満であった。</p>	4	<p>就職希望者、進路希望者ともに全員合格。</p>		

農業	地域との連携を強化する。	・学校・地域連携協議会や地元の関係機関との連携を強化する。	4 延べ数で100団体以上の連携と交流を図ることができた。 3 延べ数で80団体以上の連携と交流を図ることができた。 2 延べ数で60団体以上の連携と交流を図ることができた。 1 延べ数で60団体未満としか連携と交流を図ることができなかった。	4	1月末までに、113団体と連携と交流をすることができた。今後も増加すると思われる。	・地域との関わりから郷土愛を育てていると感じる。農業のスペシャリストがもっと出てきて欲しい。 ・日本農業技術検定は難しいと聞いている。合格率については、まずは50%が目標かと思う。	A
		・6次産業化の基礎を築くために、直売所を活用した教育を展開する。	4 直売所の来客者総数が1,400人以上であった。 3 直売所の来客者総数が1,200人以上であった。 2 直売所の来客者総数が1,000人以上であった。 1 直売所の来客者総数が1,000人未満であった。	4	1月1日までに、1768人の来客数があった。直売所の認知が進んできたことと、秋以降の野菜の高騰が原因だと思われる。		
		農業に関する専門的な知識や技術を幅広く習得させる。	・資格取得を推奨し、学習意欲の向上を図る。	・2学年全員受検の日本農業技術検定3級 4 合格率が70%以上に達した。 3 合格率が50%以上に達した。 2 合格率が30%以上に達した。 1 合格率が30%未満であった。	2		
事務	学校運営の活性化	・事務職員と教員の連携を強化したうえで事務の見直し等を行ない、学校教育目標達成のための予算執行を推進する。	4 連携を強化し、学校教育目標達成のための予算執行を行うことができた。 3 連携を強化し、事務の見直しを行うことができた。 2 連携は強化したが、学校教育目標の達成には至らなかった。 1 連携の強化が、あまりできなかった。	3	予算配分、執行において、教員の意見や今までの経緯も含めて、見直しを行うことができた。さらに連携を図り、有意義な予算執行に努めていきたい。	・事務室の電話対応や接客の仕方はとてもよい。達成度の評価(自己評価)が低いのではないかとと思われる。	B
	接遇の向上	・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。	4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。	3	朝礼での内容を事務室で伝達することにより、その日の教職員の動静を把握できるようにしている。来客に対し、素早く取次ぎを行い、言葉遣いや表情など、相手方に不快感を与えることのないような接遇を心掛けている。		

水産校舎						水産校舎	
学校運営等	水産校舎将来ビジョンの検討	・水産校舎課題検討会や広報委員会において、水産教育や水産校舎の中・長期的なビジョンについて検討し、職員会議で検討案の共有を図る。(本年度は、特に部活動について検討する。)	職員会議で水産校舎将来ビジョンについて、 4 3回以上、議題に上げた。 3 2回議題に上げた。 2 1回、議題に上げた。 1 全く議題に上げなかった。	3	・本年度、全国水産高等学校長協会が立ち上げた「次世代創生委員会」で、全国の代表委員が海洋・水産系高校の将来ビジョンや課題等の情報交換を行った。本校でも、「校内次世代創生検討会」を立ち上げ、委員が全国から得た情報を参考にしながら、本校の将来ビジョンを検討した。来年度は、特に3県共同運航、代船建造について検討する。 ・部活動については、今後、教員の指導体制、拠点校等について検討する予定である。	・長門市からもっと水産に関わりたいたいと思ってくれる生徒が育って欲しい。	B
	地域連携の充実	・地域の企業、団体や学校等と連携した諸活動の目的を明確にするとともに計画的に実施し、生徒の教育活動の質の向上を図る。	年度初めに地域連携の計画を立案し、その取組を 4 90%以上実施した。 3 70%以上実施した。 2 50%以上実施した。 1 50%未満の実施であった。	4	・各科コースで、教育活動とその目的を明確にし、地域連携の諸活動を計画的に実施した。 ・漁業の担い手育成については、漁業就業希望生徒の山口県漁業就業フェアへの引率や山口県水産振興課による漁業就業の支援制度に関する説明会を実施するなど、より具体的な教育活動を展開した。		
総務	円滑な業務遂行	・十分な準備をする。一人一役全員主役を徹底する。日本一の裏方に徹する。 ・準備と確認を徹底する。(JK)	4 概ね4週間前に行事の準備確認と案内発送。 3 概ね3週間前に行事の準備確認と案内発送。 2 概ね2週間前に行事の準備確認と案内発送。 1 概ね1週間前に行事の準備確認と案内発送。	4	・PTA関係大津校舎、学習発表会が日置校舎など主管を決め、スムーズな運営ができた。また、学校運営の円滑な遂行に微力ながら貢献できた。	・3校舎の連携はスムーズである。	A
教務	基礎学力の向上	・出席率の向上を図るとともに、担任、学年主任、他の分掌や各科と連携を行い、欠点保有者を減少させる。また、定期考査後に欠点2科目以上保有する生徒に対して特別指導を行う。	4 欠点保有者数が昨年度と比較して30%以上減少した。 3 欠点保有者数が昨年度と比較して10%以上減少した。 2 欠点保有者数が昨年度と比較して同程度であった。 1 欠点保有者数が昨年度と比較して増加した。	4	2学期期末考査の結果で昨年度の欠点保有者30名から本年度は19名、11名減少した。今後も継続して、担任、学年主任、他の分掌や各科と連携して指導を行う必要がある。	・今後もきめ細かな指導が必要である。 ・授業改善の具体的中味が見えず、掛け声だけで終わりそうである。(例:画一、一斉からの脱却を図る。個別指導の充実を図るなどの授業改善に努める。) ・難しいところと思いますが、引き続き地道に改善ください。	B
	授業規律の確立	・学期毎に全教員、生徒に授業アンケートを実施し、現状を把握し、課題に対応する。また、授業態度の報告を継続し、学年や分掌、各科と連携を行い、迅速に根気強く指導する。	4 授業改善により80%以上の生徒が「わかる」と評価した。 3 授業改善により70%以上の生徒が「わかる」と評価した。 2 授業改善により60%以上の生徒が「わかる」と評価した。 1 授業改善に取り組んだが、十分な成果が得られなかった。	2	第2回生徒授業アンケートの結果、授業が「わかる」と評価したのは64.6%であった。今後も、授業改善に努めなければならない。		
生徒指導	規範意識の向上	・学年、学科及び保護者との協力・連携体制を整え、指導を必要とする生徒への早期対応を図る。 ・学校生活において、日々の声かけによる(挨拶、マナーなどを通じて)生徒一人ひとりの意識向上を図る。	4 生徒の規範意識の向上が十分にみられた。 3 生徒の規範意識の向上がみられた。 2 生徒の規範意識の向上がややみられた。 1 生徒の規範意識の向上がみられなかった。	3	・担任、学年、生徒指導課、保護者が生徒指導に関わる協力体制強化と連携を図ることができ、昨年度に続き、問題行動の件数は減少したが、より全体が密に連携し指導の必要な生徒への未然防止に繋げることが課題である。 ・生徒への継続的な啓発や注意喚起等により生徒一人ひとりの自覚ある行動を促し、意識の向上を目指した。	・3校舎とも他校舎の生徒にも学習への意識が必要。地域に対する思いは伝わる。	B
	活気ある生徒会の運営	・生徒会行事の実施要項を早期立案するとともに、生徒会執行部との綿密な打ち合わせや運営の指導助言を行い、生徒会の主体的な活動をサポートする。	4 活気ある生徒会の運営が十分に行われた。 3 活気ある生徒会の運営が行われた。 2 活気ある生徒会の運営がやや行われた。 1 活気ある生徒会の運営が行われなかった。	3	・3校舎の生徒会による商品開発や地域の行事への積極的な参加、定期的な清掃活動の実施、学校行事の立案など、前年度に比べて活動の幅が広がる生徒会活動の運営ができた。		

保健体育	基礎体力の向上	・学校行事や部活動を通して、体育授業との連携を図り、体力の向上に繋げていく。	4 体力向上に80%以上繋ぐことができた。 3 体力向上に70%以上繋ぐことができた。 2 体力向上に60%以上繋ぐことができた。 1 体力向上に60%未満であった。	4	・体力診断テストや遠泳練習や大会を通して体力の向上に繋げることが出来た。駅伝の練習や駅伝大会で体力の向上に繋がった。	・体力の向上や自分の健康は、自分で守ることの大切さを徹底して欲しい。	A
	治療率の向上	・自己の健康に関心を持たせ、治療が完治していない生徒に対し、クラス担任と連携を取り、保護者への連絡を徹底する。	4 治療率を70%以上達成した。 3 治療率を60%以上達成した。 2 治療率を50%以上達成した。 1 治療率が50%未満であった。	4	・全体の治療率は70%を超えたが、歯科の治療率が低かった。知識・関心を持たせるだけでなく、担任の協力が不可欠であると実感した。		
進路指導	進路目標の早期設定	・生徒の進路希望情報を教員で共有する。(1学年:1月、2学年:11月、3学年:5月)	4 面談等の実施回数が4回以上であった。 3 面談等の実施回数が3回であった。 2 面談等の実施回数が2回であった。 1 効果的な面談等が実施できなかった。	4	・全校生徒を対象に複数回の面談を実施すること目標に、進路指導課と学年会が協力しながら進路指導の充実に努力した。	・早期から進路に対しての意識をして欲しい。	A
	進路希望の実現	・3年生の就職・進学希望者に対して、十分な情報提供を行い、希望先への内定・進学をめざす。	4 内定率が90%以上であった。 3 内定率が80%以上であった。 2 内定率が70%以上であった。 1 内定率が70%未満であった。	4	・就職内定率90%以上を達成した。進学でもほとんどが希望校に合格することができた。 ・1、2年生においては、進路意識の向上に向け、面談等を継続する予定である。		
寮務	寮則違反ゼロの実現	・寮則違反ゼロの実現に向け、舎監一丸となって取り組む。	4 寮則違反が前年より75%以上減少した。 3 寮則違反が前年より50%以上減少した。 2 寮則違反が前年とほぼ同じであった。 1 寮則違反が前年より増加した。	3	・舎監全員で集団生活と規範意識の向上に努め、寮則違反は減少したが、年度前半に2名を退寮処分とした。今後も根気強く指導していかなければならない。	・寮生活から集団行動や人を思いやる心が育つと思う。 ・ご苦労なところですが、根気強くご指導ください。	B
	寮内清潔保持の確立	・日頃の清掃活動を徹底し、学期末には寮生、舎監により大掃除を実施する。	4 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に寮全体で取り組めた。 3 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に舎監全体で取り組めた。 2 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に寮務課で取り組めた。 1 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除が実施できなかった。	4	・日々の掃除の徹底、学期末の大掃除ともに寮生、舎監全体で取り組むことができ、寮内の清潔保持の確保ができた。		
海洋技術	健全な心身の育成	・カッター訓練を通して青海島一周に耐えうる心身を養う。	4 青海島を1周した。 3 青海島の3分の2周ほど漕いだ。 2 青海島の半周ほど漕いだ。 1 青海島の4分の1周しか漕げなかった。	4	・9月30日(土)に実施し、5回目の青海島一周を達成した。	・水産校舎でしか体験できないことを楽しみながら健全育成に繋がって欲しい。	B
	目的意識の育成	・各種資格取得や検定合格を目指すことにより、本校で学ぶ目的を確かなものとする。	4 80%以上の者が取得した。 3 60%以上の者が取得した。 2 40%以上の者が取得した。 1 20%以上の者が取得した。	3	・1年生の8月の丙種危険物合格者12名、11月乙種4類合格者5名であった。合格率は昨年に比べ40%に減少した。 ・2月初めに受験予定の海洋技術検定はほぼ全員が合格すると予想している。		
海洋科学	産学公連携を通して、地域の活性化や社会へ貢献する取り組みを実践するとともに、海洋科学科の今後について検討する	・市の主催事業や、地域のイベント、小中学校を対象とした講座等に参加実施する。	4 年10回のイベントに参加した 3 年8回のイベントに参加した 2 年5回のイベントに参加した 1 年3回のイベントに参加した	4	地域のお祭りへの出店、フードコースによる地域開放行事、バイオコースによる漁協と連携したアカモク増養殖の取り組みなど実践することが出来た。	・アカモクの商品開発や県内のニュースや話題になっていることがうれしい。	B
	・次世代創生委員会の開催に伴い、各科の課題等を拾い上げたうえで会議、報告会を行い、今後の海洋科学科について検討する。	4 毎回、会議報告会を行い科学科、技術科ともに還元できた。 3 報告会のみ行い科学科、技術科ともに還元できた。 2 報告会のみ行い、どちらかの科にしか還元できなかった。 1 報告会も行わず両科に還元すらできなかった。	3	本校の課題を次世代創生会議に提出し、全国の水産海洋系高校と共有し問題解決へ向けて協議を行うことが出来た。校内での報告会は1学期は行うことができたが、2学期は行うことが出来なかった。			
専攻科	専攻科生として知性の育成と専門知識と技術の修得	・将来の船舶職員としての自覚にたって、模範となる生活習慣の確立と、身だしなみの徹底を図りながら人格の形成を行う。	4 目標を全員が達成できた。 3 目標を8割の生徒が達成できた。 2 目標を半数以上の生徒が達成できた。 1 目標を殆どの生徒が達成できなかった。	2	定期的に、個人面接や頭髪服装のチェックを行い指導した。概ね指導に従い良好であった。	・身だしなみの徹底を図ることは必要である。	B
	・専攻科2年生全員の3級海技士免許の習得を目指す。	4 全員が資格を取得した。 3 8割の生徒が資格の取得ができた。 2 半数以上の生徒が資格の取得ができた。 1 殆どの生徒が資格取得できなかった。	3	3月中旬に3級海技士口述試験が実施されるため、卒業考査以降も引き続き学習計画を立て、模擬口述試験も数回実施する予定である。全員の合格を目指したい。			
1年	基本的な生活習慣の確立と模範意識の確立	・欠席・遅刻・早退の多い生徒に対して、担任及び学年・分掌との緊密な連携をとり、迅速な対応をする。	4 事案に対して速やかに対応し、改善された。 3 事案に対して時間はかかったものの対応がなされ改善された。 2 対応が後手に回り、十分ではないが改善の方向に導かれた。 1 改善が全くできなかった。	3	欠席や遅刻をする生徒は少なかった。不登校の生徒1名が残念ながら進路変更した。	・基本的な生活習慣は保護者にも協力してもらう必要がある。	B
	・好感の持てる挨拶・返事・言葉使いや、頭髪服装の整った礼節ある生徒指導の徹底を図る。	4 全員に徹底された。 3 ほとんどの生徒に徹底できた。 2 半分程度の生徒に徹底できた。 1 ほとんどの生徒が徹底できなかった。	3	普段から、ほとんどの生徒が明るい挨拶、頭髪服装もきちんとできていた。2年生になっても継続してほしい。			

2年	規律正しい学校生活と進路意識の高揚	・個々の目標設定を促していくとともに、生活面の指導を継続的に行っていく。 ・清掃活動を徹底し、学習環境を整える。	4 生徒たちが自覚と責任のある学校生活をおくれた。また、日々の清掃活動を一生懸命に行った。 3 徐々にであるが生徒たちの自覚と責任ある学校生活が垣間見れた。また、日々の清掃活動を通して学習環境が徐々に綺麗になってきた。 2 生徒たちの自覚と責任ある学校生活はまだまだ不十分であった。また、清掃活動はもう少しの努力が必要である。 1 生徒たちは自覚と責任ある学校生活をおくれなかった。また、清掃活動にもっと意欲的に取り組む必要がある。	3	問題行動や校則違反などはなかったが、物事について軽はずみな行動や言動があった。2年生と言う中弛みの学年となった感がある。もっと自己実現に向けての日々の努力や進路についての指導をすべきであったと思う。	・水産校舎の生徒としての誇りを持てるような指導をお願いしたい。 ・ご苦労なところですが、根気強くご指導ください。	C
3年	社会が求める人材の育成	・コミュニケーション能力の向上、基礎学力の定着を図り、社会人に必要な心構えを学ばせ、社会で活躍できる人材を育成する。	4 生徒の人材育成のための行事を年間5回以上実施した。 3 生徒の人材育成のための行事を年間3回以上実施した。 2 生徒の人材育成のための行事を年間1回以上実施した。 1 生徒の人材育成のための行事を実施できなかった。	4	・各分掌との連携により人材育成のための行事を5回実施することができた。講演や体験活動、校外で行われたガイダンスへの参加などを通じて、社会人に必要な資質の向上を図った。	・講演会等での一言で、意識が変わると思う。	B
事務	学校運営の活性化	・事務職員と教員の連携を強化したうえで事務の見直し等を行い、学校教育目標達成のための予算執行を推し進める。	4 連携を強化し、学校教育目標達成のための予算執行を行うことができた。 3 連携を強化し、事務の見直しを行うことができた。 2 連携は強化したが、学校教育目標の達成には至らなかった。 1 連携の強化が、あまりできなかった。	3	・本年度も予算が厳しい中、事務職員と教員の連携に努め、効率的に執行できるよう努力した。学校教育目標の達成においては、不十分なところもあったが、引き続き効率的な予算執行ができるように努めたい。	・事務職員と教員の連携は充実していると思う。	B
	接遇の向上	・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。	4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。	3	・行事予定や来客の確認を密にすることにより、来客者を待たせず適切に対応することができた。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
<p>【3校舎共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を計画的に開催した。引き続き、協議会での意見を学校運営に反映しながら魅力ある学校づくりを推進する。 ・地域と連携した取組では、前年度から生徒会が進めてきた商品開発が具体化した。また、生徒の主体的なボランティア活動により連携の質は高まっている。今後とも、地域と連携した活動を利用して教育目標の達成に向けて努力する。 ・体験乗船や農業体験に加えて、毎学期、3校舎が一体となる学校行事を実施している。(1学期には野球応援、2学期に合同学習発表会、3学期に合同スポーツ大会)次年度も継続することによって学校の一体感醸成に努める。 ・学校のホームページでの更新頻度は大きく高まった。また、生徒、保護者向けメール配信システムを利用した情報交換も行った。今後は、フェイスブック等による情報発信についても検討が必要である。 ・PTA活動では、各校舎で開催される文化祭、農高祭、すいこう祭などの行事において、校舎を越えた活動に参加してもらい、相互理解を深めることができた。継続した取組が大切と考える。 <p>【大津校舎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」の充実を図るため、今年度から長門学での地域人材の登用や、国際交流委員を活用した国際理解教育を実施した。生徒達には大変好評であり、郷土理解と国際理解の深化を図るといふ目的は十分に達成できたと思える。次年度はさらに拡大して実施していく方向で検討を進めていく。 ・学校通信の発行、ホームページの更新、中学校への訪問拡大など、本校舎からの情報発信は積極的に進められている。今後は、発信した情報の周知を図る工夫が必要である。 ・授業公開、初任者研修やフォローアップ研修、中高連携の研究授業等の機会を利用して、三校舎間で積極的に授業研修に取り組み、教員の授業力向上を図った。今後は新しい大学入試を意識した授業改善をさらに進めていく必要がある。 ・7月に実施した韓国中馬高校との交流では、両校の生徒がテーマを設定し、ネット環境を利用して事前に意見交換を行い、訪問当日に両校が協力して発表する形で実施した。内容的に素晴らしいものになり、参加したほとんどの生徒が満足したと回答していた。次年度、本校からの訪問が予定されているが、連絡を密にとりながら詳細な計画を立てていく必要がある。 ・生徒は落ち着いており、校則等は概ね遵守できている。しかし、一部の生徒には交通マナーや携帯電話の使用の仕方に問題があるため指導を強化していく必要がある。 ・登校時間や授業の開始時間は良く守れているが、朝学習に対する意識向上が今後の課題である。 ・保健指導では健康診断後の受診など、生徒が主体的に健康や体力の保持増進に努めていけるように、継続して指導していく必要がある。また、環境整備については、流し場の清掃など今一度見直す必要がある。 ・教育相談においては、学期ごとのFitアンケートを踏まえた教育相談会議や関係機関職員とのケース会議を適宜実施し、SC、教育相談関係者、保護者、学年団との情報交換も密に行いながら、生徒の支援につなげた。しかし、不登校傾向にある生徒は依然としており、早期対応及び支援の一層の改善・充実が必要である。 ・大学や予備校との連携により、様々な企画を進めることで、生徒の進路意識の高揚を図った。今後は個々の取組に継続性と関連性を持たせ、生徒が将来の進路を段階的に考えていける体制を工夫していく必要がある。 ・課外授業では、夏季前期・後期の開講科目の調整、開講講座の増設、習熟度別の一部導入で生徒のニーズに可能な限り応じた。また、考査前には土日活用で、開講希望の多い授業の補講を行い学力向上に努めた。 <p>【日置校舎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度も地域との交流、学習の場とした学校開放に努め、地域連携活動を盛んに行った。本年度の来校者は昨年度よりやや少なかったが、校内外での農業学習は充実しており、生徒の自己肯定感を醸成できていると感じる。 ・プロジェクト研究活動では、地域資源を活用した題材や地域の課題解決に向けた取組が多く、畜産班が農業クラブ全国大会で優秀賞を受賞するなど、日置校舎としての独自性や強い探求心が発揮された。 ・学習指導においては、「分かる授業」の取組が着実に実践されており、また、放課後等を利用した綿密な個別指導により、昨年度に比べて欠点総数・欠点保持者数ともに半減した。 ・生徒指導においては、全体的に基本的な生活習慣が確立されつつあるが、自ら考えて行動できるまでには至っていない。特別活動では、生徒会を中心とした活動が積極的に行なわれ、生徒間でのコミュニケーションを大切にしようとする意識が高まった。 ・保健体育について、健康診断及び事前事後の保健指導の充実により、事後措置における受診率が昨年度に比べてはるかに上がっている。全校朝礼における生徒への呼びかけなどによる指導を継続しており、更に指導を進めているところである。 ・進路指導では、年間指導計画にしたがってきめ細やかな面談や個別指導を行い、生徒が希望する進路先に早い段階で、殆どの生徒が決定した。進路決定率100%達成できた。 ・農業に関する専門的な知識や技術を幅広く習得させることを目的として、日本農業技術検定3級の資格取得に着眼し、指導を行った。2年生全員が受験をしたが、合格率は50%を超えることはできなかった。 <p>【水産校舎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係機関と連携した活動では、県農林水産部・漁協と連携し、生徒・保護者を対象に漁業就業説明会を実施し、約20名が参加した。また昨年度に引き続き、長門市役所・漁協と連携したアビの放流と育成場整備の取組、水産研究センター・漁協・企業と連携したアカモクの増養殖と商品開発の取組、地元小学校と連携した食品製造体験授業など、地域の活性化に貢献するとともに学習活動・体験活動の充実を図ることができた。 ・学習活動では、昨年度に比べると欠点科目保有者が3割以上減少し、学習状況、出席状況ともに改善が見られたが、苦手科目の取組状況等に引き続き課題が残った。資格取得では、取得率も年々向上傾向にある。 ・生徒指導では、アンケートや相談活動、情報共有等の充実など、未然防止の取組の強化により昨年度に比べ問題行動が減少し、進路変更等による中途退学は1名であった。 ・進路指導では、進路面談や事前指導の充実により、ほとんどの生徒が早い時期に企業の内定、進学校の合格を得ることができた。2月末までに学校紹介による就職希望者は全員が内定した。また、進学希望者も全員の進学先が決定し、うち1名が国立大学に合格した。 ・生徒募集では、例年通り教員が7月と12月に県下の中学校を訪問し、生徒募集・学校PRを行った。しかし、8月のオープンキャンパスの参加者・参加中学校数が昨年度に比べると少なかったため、入学志願者数も減少した。 	

7 次年度への改善策

【3校舎共通】

- ・学校運営協議会での議論を踏まえ、大津緑洋高校の更なる活性化に向けて検討を重ね、関係者での共通理解を図り推進する。
- ・地域と連携した取組を進める中で、引き続き連携活動の質の向上に努める。
- ・しっかりと情報発信に努め、特に小・中学校の児童生徒、保護者、教員への工夫した情報発信にも努める。
- ・体験乗船や農業体験に加えて、3校舎が一体となる学校行事を継続して一体感の醸成に努める。
- ・PTA総会やその他のPTA行事に加えて、3校舎間の保護者が共通理解・相互理解を深める行事を企画・実施する。

【大津校舎】

- ・コミュニティ・スクールを効果的に活用し、教育の質の向上を図り、教育目標の達成をめざす。具体的には、学校運営協議会の協力を得ながら地域人材の活用を積極的に進め、地域の皆さんとのコミュニケーションや実践的・専門的な知識に触れる機会を増加させ、「Think Globally, Act Locally」の精神につなげる。また、引き続き本校舎の活動を生徒、保護者、地域に情報発信するとともに、それを周知し本校舎の教育活動を理解してもらうことで志願者確保を図る。
- ・生徒の実態を把握し、実態に応じた朝学習や週末課題、課外授業等の改善を進め、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実させる。また、主体的に予習・復習に取り組む学習習慣の確立を図るとともに、教員の授業力を強化し「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業づくりを進めることで、生徒の学習意欲の向上と基礎・基本の定着、思考力・表現力等の育成を図る。特に朝学習については、今一度、教職員の共通理解を図り、効果的な取組となるように工夫する。
- ・生徒が主体的に健康や体力の保持増進に努めていけるように、継続して指導していく。また、環境整備については、衛生面からも現状を調査し、改善が必要な部分は清掃活動や保健委員会の活動として取り組んでいく。
- ・生徒は概ね落ち着いているが、一部の生徒に服装の乱れや交通マナー、携帯電話の使用の仕方に問題があるため、指導を強化し規範意識を向上させる取り組みを進めていく。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動、地域と連携したボランティア活動等を活性化することで、生徒の自己有用感を高め、地域の期待に応えるリーダーとしての主体性や自主性を育成する。
- ・全教職員やスクールカウンセラー、中学校等との連携を進め、個人面談や定期的なアンケートの実施により生徒情報の積極的な収集と意見交換を行うことで、生徒の課題解決に向けた、きめ細かな支援につなげる。
- ・大学の出前講義や大学訪問、インターンシップ等の体験学習、韓国中馬高校との交流等を積極的に進め、生徒の進路意識の高揚を図る。また、個々の取組に継続性と関連性を持たせ、生徒が将来の進路を段階的に考えていける体制を構築する。

【日置校舎】

- ・各種部会(学校・地域連携協議会)の活動、学校情報の発信、学校開放等を継続して行い、「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- ・同時に、これまでの全ての地域連携活動について見直しと検証を行い、活動の量よりも質を高める工夫を模索していく。
- ・プロジェクト研究活動の充実を図り、地域資源を活用した研究や地域の課題解決に向けた取組を推進する。
- ・授業研究等によって教員の授業力の向上を図り、朝学習等の充実による基礎学力の定着を図る。
- ・基本的な生活習慣の確立に向けて生徒一人ひとりを粘り強く指導していくとともに、特別活動を盛んに行って生徒のコミュニケーション力を育成する。
- ・学校環境の美化と安全管理を徹底するとともに、呼びかけにより健康診断の事後措置における受診率を更に向上させる。
- ・1年次から進路ガイダンスや企業見学等による進路情報提供を積極的に行い、早い段階での進路意識の醸成を図る。

【水産校舎】

- ・地域連携、地域貢献の活動を継続、充実するために、実施体制や年間計画の見直しと進捗状況の確認等を行う必要がある。
- ・学習活動では、学習意欲向上のために全教員が分かりやすい授業の展開と授業改善に努めるとともに、きめ細かい指導を粘り強くする必要がある。
- ・生徒指導では、引き続き、生徒理解の視点にたった相談活動の充実や情報収集・情報共有に努め、問題行動や不登校等の未然防止に向け、組織的に取り組む必要がある。
- ・進路指導では、1、2年生の面談等の充実により進路意識の高揚と進路希望の早期決定を図る。また、分掌の連携など組織的な指導体制の充実により進路希望の実現100%を目指す。
- ・水産校舎のマイナス面のイメージは依然として残っているが、改善を評価する意見も増加傾向にある。保護者や地域、関係機関のアドバイス等を参考にしながら、水産校舎の教育活動の充実と教職員の資質向上に努め、入学志願者の増加に繋げて行かなければならない。さらに、生徒募集に向けたPR活動等にも改善が必要である。